語　研　便　り

大東文化大学　語学教育研究所広報（2021 年 12 月）

研究発表会のお知らせ

2021 年度、第 4 回研究発表会を下記のとおりオンラインで開催いたします。
ふるってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

日　　時 ： **2021 年 12 月 13 日(月) 午前 10 時 30 分～**

参加方法 ： 本発表会は学内限定で Zoom を使用して開催します。
Zoom の URL、ミーティング ID 等は別途メールでお知らせします。
ご不明な点は、語学教育研究所までお問い合わせください。

①発表者 ： **三上 傑 先生（外国語学部 英語学科）**

題　目 ： 生成文法理論における日本語研究の「これから」:
より説明力の高い言語理論の構築を目指して

②発表者 ： **尹 仙花 先生（語学教育研究所 客員研究員）**

題　目 ： 翻訳授業における出典論の応用
―華中師範大学の日本語教育実践を中心に

③発表者 ： **池田 美枝子 先生（語学教育研究所 客員研究員）**

題　目 ： 万葉集の文学圏
―有間皇子詠と追和歌群の採録―

※要旨は次ページに掲載しています。

①発表者 ： **三上 傑 先生（外国語学部 英語学科）**

題　目 ： 生成文法理論における日本語研究の「これから」:
より説明力の高い言語理論の構築を目指して

概　要 ： 自然言語の普遍性を捉える理論として、生成文法理論はその誕生以来、めざましい発展を遂げてきた。しかしながら、その理論構築にあたっては、主として現代英語に関する議論に基づきなされてきた側面がある。一方、日本語を見てみると、現代英語とは異なる様々な類型的特徴を持つことが分かる。本発表では、より説明力の高い言語理論の構築を目指し、生成文法理論における日本語研究から一般理論への貢献の可能性について考察したい。

②発表者 ： **尹 仙花 先生（語学教育研究所 客員研究員）**

題　目 ： 翻訳授業における出典論の応用
―華中師範大学の日本語教育実践を中心に

概　要 ： 翻訳論文は原作と訳作を比較し、訳者の翻訳態度・方法を究明する論文スタイルのことを言う。翻訳論文作成において、考察対象選択の主観性、理論と分析の乖離、結論の単一化問題が存在する。調査の結果、このような問題が存在する原因は理論応用の不適切にあった。したがって、古典文学研究の出典論を論文指導に応用し、論文作成における問題点の解決を試みた。本発表ではその指導プロセスと効果及び今後の課題について発表する。

③発表者 ： **池田 美枝子 先生（語学教育研究所 客員研究員）**

題　目 ： 万葉集の文学圏
―有間皇子詠と追和歌群の採録―

概　要 ： 現存する日本最古の歌集である『万葉集』には、〈宮廷歌壇〉〈皇子文学圏〉といった〈文学圏〉で醸成・継承された作品が採録されることがある。本発表では、『万葉集』巻二・挽歌部冒頭所載の有間皇子の自傷歌とそれに追和した人々の歌について、〈文学圏〉という観点からその採録について考察してみたい。

以上

［問い合わせ先］語学教育研究所 E-mail : daitogoken@gmail.com